

主催：聴覚障がい児・者自己啓発グループ「ひよこっち」
わくわく・デフスポーツ体験実行委員会
協力：各デフスポーツ団体等・体育健康科学系ろう学生

2014年2月23日(日) 東京都杉並区
東京都立中央ろう学校



スタート・ゴール地点

延べ86名のろう児が参加！

昨年の8月にブルガリアの首都ソフィアで行われたデフリンピック(当マガジン第81号2013.10号参照)の日本での知名度を上げる為、あまり知られていないデフスポーツを紹介する為にろう小学生を対象とした体験イベントが行われました。日本デフオリエンテーリング協会(JDOA)は今回から初めて協力しました。その結果、意外と述べ86名と多くのろう小学生の参加者がありました。

注：開催地であった杉並区の都立中央ろう学校は中学、高等部のみのろう学校です。参加者は都内周辺の小学部のあるろう学校の子どもたちがほとんどです。



受付とスタート前の子供

1か月前に協力依頼！

開催の前月に主催より参加協力依頼がありました。こんないい企画があったことを知らなかったJDOAは早速協力することにしました。

しかし、すぐに行き詰ったことは、0-MAPがないことでした。早速、主催へ基本図となるものの提供をお願いしましたが、詳細な校内地図の提供は防犯上、東京都から禁止されているとのことでした。

校内0-MAPを作成しても参加者には貸し出す方法により校外へ持ち出さないようにすることでようやく入手しました。2月に入って2度の首都での大雪にあっけしき、結局、一週間前の日曜日に前日の大雪で交通マヒの中でなんとか中央ろう学校へ出向き、一人で現地調査をわずか2時間で済ませるといふ厳しい調査でした。もちろん、積雪もあって花壇の区域も確認出来ませんでした。とりあえず、外周の柵や人工特徴物や独立した樹木や物置の追加確認に止めました。

作図は、地図設計士の資格のある田村聡君(ソフィアデフリンピック日本代表)が行いました。最初はすべて手で描きましたが、徐々に作図したためか出来が悪かった。それで、高価なOCADが持ち合わせてなく、Orienteer-MLで紹介あったOpenOrienteeringMapper(<http://orienteering.sourceforge.net/>)というOCADのライバルと思わせるようなものを使って作図してみました。そのお陰で校内0-MAPはわずか2,3日で出来ました。縮尺は1/300なので

完全にJSSOM2007の規則通りには行かず、参考に止めながら作図しました。急遽作図したのと、小学生相手なので磁北線はひかずに「都立中央ろう学校(磁北線未記入版)」という1/300の0-MAPがようやく完成しました。



小学低学年子供たち(最終コントロール)

当日の運営

積雪の状況が分からず、前日までにコントロールの確定が出来ませんでした。当日、早めに行き、私以外のスタッフ2名(田村聡君、丘村彰敏君)に試走して頂き、コントロールの確定を行いました。コースは小学1,2年生向けの低学年コースと小学3,4年生向けの中学年コースと小学5,6年生向け高学年コースの3コースを設定しました。

低学年と中学年コースはグラウンドを一周するコースでスタート、ゴールのあるところから見渡せる範囲でしたのでパトロールしなくてもすみます。高学年コースは学校の裏を一周するコースで面白さをアップさせたコースにしましたが、実際には中学年のコース参加者が再び参加して回るコースとして利用することが多かったのです。

3コースに9枚ずつの0-MAPを用意したが一度に9枚を超えるようなスタートがなかったのが幸いでした。ちなみに、9枚にならないうちに0-MAPの回収が出来ていました。2人が受付、参加者リスト記入を行い、スタート、ゴールタイムの記入も最初は行ったが、どんどん参加希望者が増加し、リストへのTIME記入がおろかになってしまいました。とにかく、チェックの正誤チェックのみを行い、OK、NGの判断して、

NGのときは子どもに説明してもう一度回らせました。

今回のコントロール通過証明はクレヨン方式でした。スタッフはJDOAの3名でしたが、結局、実行委員会のろう大学生スタッフ3名も手伝ってもらえたので助かりました。

当日はオリエンテーリング以外、バスケットボール、剣道、バトミントン、ダンス、サッカー、陸上、卓球、空手等のスポーツ体験も行われていました。オリエンテーリングは時間の限定がなく閉会の一時間半前まで常時受け入れという体制でしたので参加者が途切れることなく続々来ていたので時間があっという間に過ぎてしまいました。



校内唯一の低山

ろう児は補聴器をつけており、真剣にアスリートの説明を聞きながら参加していました。低学年は友だちか保護者と一緒に回るようにしたつもりが、一人でやるという子どももいました。スタート地点で、「5・4・3・2・1・スタート!」と手話とともに掛け声し、元気よくダッシュしてゆきました。

午後に一時的中断して講演も行い、講演では、FIN-5で撮って来た小さな子どもたちがゴールレーンを走ってくる場面を見せながら、海外では学校教育の中でオリエンテーリングを教えているのに対し、日本ではやっていないから知らない子どもが多いということを話しました。

講演時に、オリエンテーリングという言葉を知っているかを子どもに尋ね

たら一人も知っている子はいませんでした。つまり、今日の体験でオリエンテーリングというスポーツを初めて知ったこととなります。それは大きな収穫でありました。また、オリエンテーリングは宝探しのように見えるが、実際は磁石(コンパス)と地図と歩幅(歩測)などを活用して正確に当てまわりタイムを競うものだということを強調しておきました。



ふたつのコントロール

やってみて

今回の体験をやってみた結果、面白かった、またやりたいという子どもが少なくありませんでした。しかし、この後にまたやれる機会はないのがとても残念なことだと思います。せめて、これから進学してゆく過程で子どもがどこかで再びオリエンテーリングに出会えればいいなと思っています。それは、我々オリエンティアがそういう再び出会えるような機会の場を多く作っておくことが大事ではないかと思いません。

(JDOA 野中好夫)



講演会